

坪井誠太郎資料調査から得られた知見：遺された手紙類を読み解く The Research on Seitaro Tsuboi Materials: Interpreting his Correspondence

栃内 文彦^{1*}

TOCHINAI, Fumihiko^{1*}

¹ 金沢工業大学

¹ Kanazawa Institute of Technology

発表者は、JpGU2012年大会にて発表したように、東京大学大学院情報学環社会情報研究資料センターに収められている地質学者 坪井誠太郎（1893-1986年）に関する大量の資料（以下、「誠太郎資料」）の調査を、2010年から進めている¹⁾。坪井は、1920年代から1950年代にかけて、物理学的・化学的手法（溶融実験、偏光顕微鏡を用いた光学分析）を用いた火成岩成因研究を行なった。多くの地質学者が、肯定的であれ否定的であれ、彼の研究に惹きつけられた。東京（帝国）大学地質学教室教授として当時の日本地質学界のいわば「頂点」にいたこともあって、日本の地球科学の動向に大きな影響を与えた。

「誠太郎資料」の調査を始める前に発表者が得ていた知見では、坪井の日本地質学界への影響力は、坪井が1954年に停年によって東大地質学教室から退いた後は、急速に減少したことが窺われた。ところが、「誠太郎資料」として遺されている彼の著作に関して出版社と交わされた手紙や、印税額の通知書類などを分析した結果、坪井が行なった研究は1980年ごろになっても、相当な関心を集めていたことが分かった。

本発表では、「誠太郎資料」から得られた上記の新知見を、資料を実際に紹介しながら具体的に論じてみたい。

注

¹⁾ 栃内文彦：「地球科学史資料のアーカイブ化：坪井誠太郎資料調査からの知見より」（2012年5月20日）。これまでの調査の概要は、栃内文彦：「坪井誠太郎資料」の意義 一同資料の概要調査から得られた知見一、『東京大学大学院情報学環社会情報研究資料センターニュース』23号、2013年3月、pp. 1-6。なお、2012年度以降の調査・研究は（本発表も含めて）、JSPS 科研費（課題番号 24650583）の助成を受けて行われている。

キーワード: 科学史, 日本地質学史, 坪井誠太郎, アーカイブ

Keywords: History of Science, History of Geology in Japan, Seitaro Tsuboi, Archive